

不二ラテックス 伊藤研二社長

検査だけでなく、事前の検討の過程にこそ啓発的な意義がある

私どもは、以前から世界エイズデーでコンドームの無償配布を行うなどの啓発に取り組んできましたが、今回のお話をいただいた際、社内で「そんなことをしたらあそこの会社にはHIV感染者が多いのではと思われる」という意見が出たこともあり、さらに詳しくHIVについて理解を深めたいと考えました。事前の説明会で、治療が劇的に進歩していることや、陽性者が元気に生活しているということ、HIVについての最新情報なども詳しく聞くことができ、非常に勉強になりました。ぜひ社会にもっとこの話を広めたいと思いました。今回、全社員に郵送検査キットを配布しましたが、これは社員の健康に資するだけでなく、いい啓発になったと思います。まだ参加されていない企業様は、

説明会でHIVについての話を聞いて正しい情報を得たうえで、社内で十分ディスカッション・検討してから行動に移すとよいと思います。必ず、貴社や社会への貢献につながります。



社員の健康支援に取り組むヘルスケア企業であることを社員に改めて認識してもらった機会になった。社長自らが先頭立ってアピールを行った。



本社、工場での研修の様子。職場の人数や都合にあわせて、20-30分の分かりやすい出前研修を行った。場所や内容は事前に相談しながら決めている。

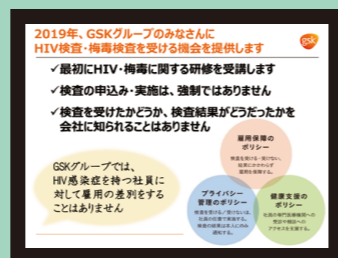
グラクソ・スミスクライン株式会社

プライバシーへの配慮を徹底し、検査は決して強制しなかった

グラクソ・スミスクライン株式会社は、抗HIV薬の研究開発に取り組むヴィーブヘルスケアを傘下に擁し、社内ポリシーで「すべてのHIV陽性者に貢献する」と掲げていることから、取り組みを通じて社員のみならず社会へのHIV検査啓発になればと、参加を決めました。約3000人の正社員全員にHIV/エイズについてのかなり深い内容の研修をオンラインで実施したのち、決して強制ではなく、検査申込みを案内することにしました。課題は主にプライバシーへの配慮で、検査希望者が研究班の委託する外部検査機関のサイトに直接申し込む形

式とし、会社では検査結果どころか誰が受検したかということすらわからないくらい、匿名性を徹底しました。ポール・リレット社長は「社員の健康を守るだけでなく、新たな検査機会提供方法の構築によってHIVを取り巻く社会的課題の解決に寄与すること、社員が問題意識を持って積極的に社会参画するような会社を目指す」と述べています。

オンライン研修のみならず本社等で専門医等から話を自由に聞ける場を設置した。2日間にわたり開催された研修にも多くの社員が参加した。



御社の現状に合わせた、実施方法を考えます。
ぜひ、ご相談ください。

BRTA

Business Responds to AIDS

JAPAN

[URL] <https://www.brta.jp/>
[TEL] 03-3361-8964(月~土曜日 12時~19時)
[E-mail] contact@brta.jp



平成30年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業

職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制の研究

研究代表者：横幕能行

独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター エイズ総合診療部長、エイズ治療開発センター センター長

事務局：特定非営利活動法人ぶれいす東京(担当：生島・大槻)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403 <https://www.ptokyo.org/>



BRTA

Business Responds to AIDS

JAPAN

BRTA JAPANと一緒に社員の検査機会を増やしましょう
A Partnership with BRTA-Japan.

